

インターバンクの声（2014年8月5日）

金曜日の米雇用統計結果が、暫く見ていなかったレベルへ転換する契機とはならなかったものの、中長期のドル高センチメントに変化はないと言う。それでも早期の利上げ観測が再び後退気味になってしまったのは事実で、足元で103円に戻そうとするパワーよりも102円方向にどこまで迫れるかを試す動きが勝ったように感じられたのが昨夜の海外市場だ。しかし、実際にはドル円単独でドルを売っていたと言うよりもユーロの下落によるユーロ円の値下がりの影響が強かったようでもあり、今週中に主要通貨の方向感に変化が見られるとすれば、木曜日の欧州中央銀行（ECB）理事会や金曜日の日銀金融政策決定会合でのサプライズが必要になりそうだ。今日のアジア時間のハイライトは、オーストラリア準備銀行の理事会だが、豪ドル高に対する強いけん制メッセージが出るか否かで、豪ドル相場が大きく変化しそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。